

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年五月度 入選句（投稿総数二千九十五句・小中学投句数千四百九十七句）

特選

選者 高木 恵理

ひとりだけぼつんと帰るかえる鳴く 大垣市 佐竹 一希(小六)

さきほどまで一緒に遊んでいた友達と別れ、家に帰るのでしよう。日も暮れてきて、きつとさみしく感じているのでしようね。ふと気付くと、辺りではケロケロとかえるが鳴いています。ひとりぼつちの作者はかえるから元気をもらったのかもしれない。「ひとりの自分」と「かえるの鳴き声」、静と動の対比が見事な俳句です。

夜ざくらはかいぶつみたいいつよそうだ 大垣市 河合 悠馬(小四)

昼間に見る桜と、夜に見る桜は確かに様子が違います。太陽の光を浴びた薄いピンクの桜は、誰しも美しいと感じることでしよう。その一方作者は、月明かりでぼんやり見える夜桜にこわさを感じたのでしよう。「かいぶつみたい」ととらえたことに作者の発見があり、子どもらしい感性があふれています。

キャンプ行くきれいな森の空気吸う 大垣市 隠 香音(小六)

豊かな自然に囲まれたキャンプ場。わくわくしてから車から降りると、目の前に新緑にそまった大きな山が見えたのでしよう。美しい川が近くを流れているのかもしれない。鳥が飛び、川には小魚が泳いでいる風景まで見えてきます。キャンプ場に到着して、まず「きれいな森の空気を吸った」というところに、作者の感動がよく表れています。

秀逸

たいこ打つさくらまいちる学校で 大垣市 三島 暎睦(小五)

地図持って昼食めざす遠足だ 大垣市 三輪 千翔(小五)

弟が入学式でキリリ顔 大垣市 安藤 紗彩(小四)

ツバメくんこれからぼくも給食だ 大垣市 石黒 海成(小四)

かえるさんあしたはあめとないている 大垣市 安田 璃香(小四)

ぶらんこで雲のボールをけりあげる 大垣市 伊藤 美怜(小四)

にらみあいつのでたかうかぶとむし 大垣市 川股 悠月(小六)

山の夜星とホタルがまじり合う 大垣市 大橋 叶夢(小六)

手づくりのたけのこご飯祖母の味 大垣市 牛田 温斗(小六)

いつもよりすこしごちそうこどもの日 大垣市 宮森 彩羽(小五)

入選

初めての友達つれてさくら道 大垣市 川瀬 里菜(小六)
 かぜかおるやまのぶたいをあおぎみる 大垣市 倉橋 由奈(小五)
 かしわもちなかにはげんきがはいってる 大垣市 ふち とくひさ(小三)
 あさおきてげんきになくよつばめのこ 大垣市 石原 颯太(小四)
 れんげそうつないでつくるネックレス 大垣市 杉原 莉歩(小四)
 ごはんまだおおぐちあけたつばめのこ 大垣市 丸井 彩夢(小四)
 ミツバチが待っていましたと蜜をすう 大垣市 須網 桃果(小四)
 転がったボールのかげにつくしたち 大垣市 石黒 海成(小四)
 四月から妹ついにランドセル 大垣市 大野 新太(小四)
 菜の花がおいわいしてる通学路 大垣市 柳瀬 太紀(小四)

入選

新学期わたしは四年姉一年 大垣市 酒向 結埜(小四)
 ふじ祭りママがうどんを作ってる 大垣市 田中 聖奈(小四)
 雨がふるピカピカひかるアサガオだ 大垣市 岩田 なほの(小六)
 家帰り麦茶を一口生きかえる 大垣市 青木 琉空(小六)
 更衣気分も軽く身も軽く 大垣市 田中 凜(小六)
 水がないプールの底でブラシ持つ 大垣市 藤田 光聖(小六)
 筍の料理が続く夜ご飯 大垣市 棚橋 万桜(小六)
 ねているとどこからかかさがさしにくる 大垣市 平松 礼夢(小六)
 宿題のえんぴつとめてちまき食べ 大垣市 森 亜子(小五)
 くものみねそらいちめんがわたがしだ 大垣市 安本 心(小五)

選者吟

軽やかにステップ踏み蝶の飛ぶ

恵 理